

次期Earth戦略における SDGsの視点

SDGs (Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標)

- 2015年9月の国連サミットで全会一致で採択
成果文書：「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」
- 「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のための、国連加盟193か国が2016年～2030年の15年間で達成するために掲げた目標
- 17の目標と、それらを達成するための具体的な169のターゲットで構成されている
- 特徴は、①普遍性、②包摂性、③参画型、④統合性、⑤透明性の5点。



普遍性

先進国を含め、全ての国が行動

包摂性

人間の安全保障の理念を反映し
「誰一人取り残さない」

参画型

全てのステークホルダーが役割を

統合性

社会・経済・環境に統合的に取り組む

透明性

定期的にフォローアップ

SDGsを巡る内外の動向

相互に絡みあうグローバル課題
・貧困 ・ジェンダー
・難民 ・気候変動・自然災害
・テロ ・感染症・非感染症 等

格差の拡大と
反グローバリズムの台頭

新興国・途上国の成長に陰り

主権国家以外のアクターの役割
の拡大

不安定・不確実な国際社会において、
持続可能な未来を作るためには、「変革」が必要。



SDGsは、絡みあう課題を同時かつ根本的に解決し、
持続可能な未来を示す羅針盤
(3つの特徴：①バック・キャスト、②アウトサイド・イン、③共通言語)

SDGsの推進は、大きな成長と利益のチャンスをもたらす。
(※世界経済フォーラムの推計によれば、SDGsの推進により、12兆ドルの価値、
3億8千万人の雇用が創出)

各アクターは、SDGsに積極的に取り組むメリット、取り組まないリスクを考慮

SDGsで協力し、共創する時代に

【各国政府】

【企業】

【投資家】

【地方自治体】

【市民社会】

国際社会におけ
主導力の獲得
(国連、G20、G7等)

本業として
SDGsの推進
(価値創造・創業)

環境・社会・ガバナンス
(ESG) 投資のリターン

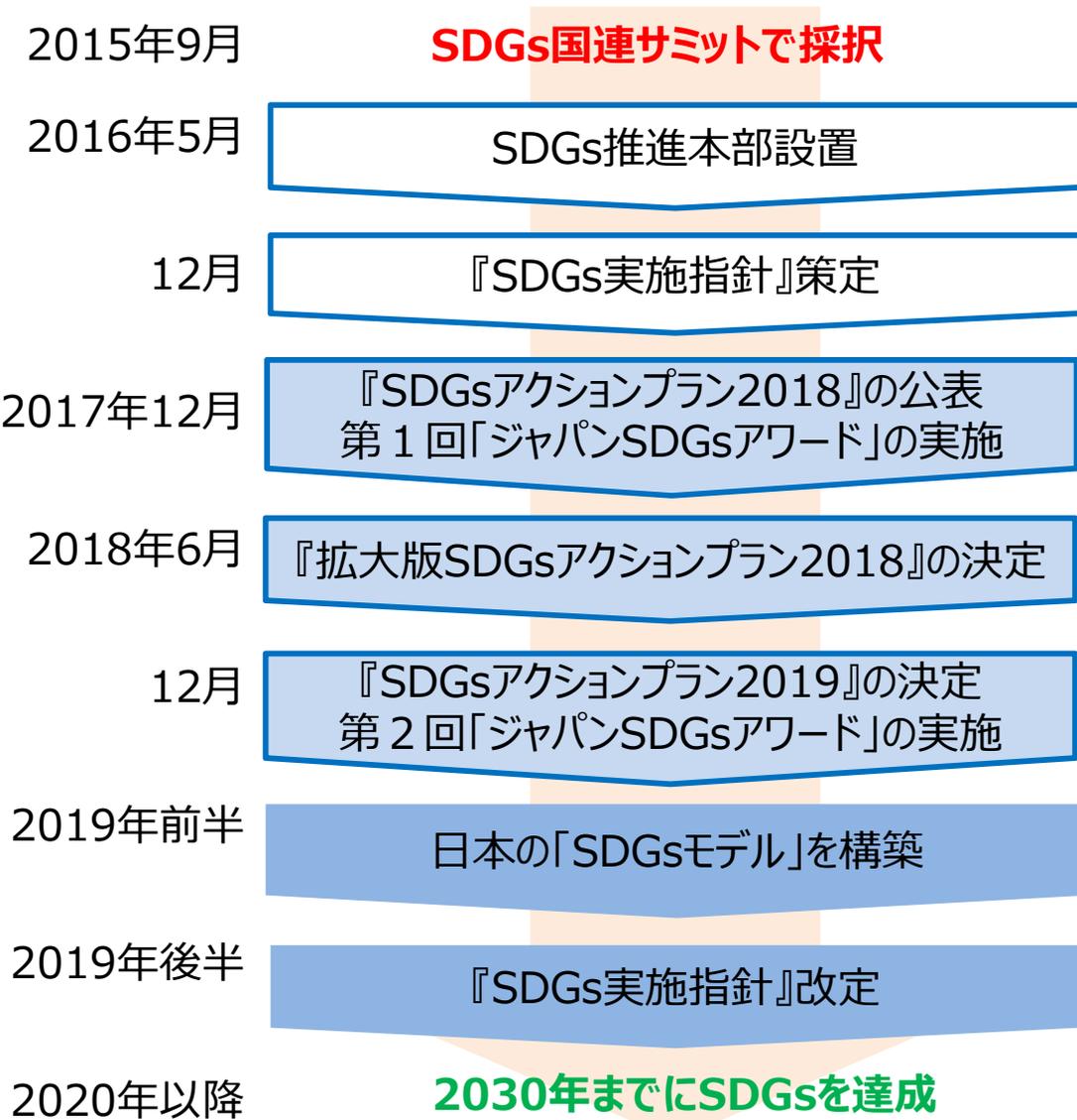
地方の魅力・強みを活か
しつつ、SDGsを推進

SDGsを通じて
声をひとつに

日本政府における動き

日本政府は、2016年5月にSDGs推進本部を設置し、「実施指針」、「SDGsアクションプラン」を公表し、日本のSDGsモデルを国際社会に展開していく。

日本政府のSDGs実施のための短期工程表



『SDGsアクションプラン2019』のポイント

I .SDGsと連動する「Society5.0」の推進

- 中小企業におけるSDGsの取組強化
- 科学イノベーションの推進

II .SDGsを原動力とした地方創生、強靱かつ環境に優しい魅力的なまちづくり

- SDGsを原動力とした地方創生
- 強靱かつ環境に優しい循環型社会の構築

III .SDGsの担い手として次世代・女性のエンパワーメント

- 次世代・女性のエンパワーメント
- 教育・保健分野における取組

展開とフォローアップ

- 日本のSDGsモデルを、東南アジア・アフリカを重点地域としつつ、国際社会に展開していく。
- 国際的な指標等に基づいて、これまでの取組をレビューし、2019年後半には『SDGs実施指針』を改訂。

経済団体における取組

2017年11月、(一社)日本経済団体連合会は、**Society 5.0の実現を通じたSDGsの達成**を柱として「企業行動憲章」を改定。持続可能な社会の実現が企業の発展の基盤であることを認識し、広く社会に有用で新たな付加価値および雇用の創造、ESG(環境・社会・ガバナンス)に配慮した経営の推進により、社会的責任への取り組みを進める。また、自社のみならず、グループ企業、サプライチェーンに対しても行動変革を促すとともに、多様な組織との協働を通じて、Society 5.0の実現、SDGsの達成に向けて行動する。

Society 5.0 for SDGs

Keidanren
Policy & Action

Society 5.0は「課題解決」と「未来創造」の視点を兼ね備えた新たな成長モデル
さらには、国連で掲げられたSDGsの達成にも大いに貢献するもの

2019年度事業方針(2019年5月30日)
「Society 5.0 for SDGs」で新たな時代を切り拓く

※抜粋

1. 成長戦略の推進～Society 5.0 for SDGs 実行へのアクションプラン

■ 企業が変わる

(1) Society 5.0の実現
〔重要分野の検討〕

- ①ヘルスケア、②農業、③観光、④物流、⑤防災・減災、⑥金融、⑦教育

(2) SDGsへの企業の取り組みの推進

- (3) イノベーションエコシステムの構築
- (4) 働き方改革
- (5) 女性活躍とダイバーシティの推進
- (6) 高齢者や障害者の多様な働き方の実現

■ 人が変わる

- 行政・国土が変わる
- データと技術で変わる

2. 経済構造改革の推進

(6) 企業法制改革、コーポレート・ガバナンス改革、投資家との建設的対話を通じたSDGs関連投資の促進

3. 持続可能なエネルギー・環境政策の実現

4. 民間経済外交の展開

5. 国家的イベントの成功

6. 震災復興の着実な推進と東北の再生・創生



経団連はSDGsを支援しています。

Earth戦略におけるSDGsの視点（方向性）①

1. SDGsの視点をEarth戦略に取り込む必要性

SDGsの推進は、地域にとっては社会課題や地域課題の解決に繋がり、企業にとっては大きな成長と利益のチャンスをもたらす。SDGsという未来志向のツールをEarth戦略に取り込み、九州・沖縄地域の持続的な発展を目指すことが必要。

2. Earth戦略とSDGsの関係性

現行Earth戦略にもSDGsに通じる基本理念は存在している。2021年度以降のEarth戦略～Stage2のプロジェクトの実行を通じてSDGsを達成する。

Earth戦略 I. 総論（抜粋）

「本戦略は、九州の産学官金が連携して、豊かな自然を活かしグローバル（地球規模）な視点で課題に挑戦する九州の成長戦略であり、4つの戦略産業分野が相互に連携し、一例えば、農業分野での再エネの活用、ヘルスケアツーリズムの展開、戦略産業分野関連イベント・会議等の域内開催などにより相乗効果を高め、アジアのゲートウェイとして持続的な発展を目指すものである。」

V. 最後に～選択する未来（抜粋）

「望ましい未来は、現在を望ましい方向に変えていくことで手にすることができる。未来は選択できる。」

SDGsの視点を取り込み、「Earth戦略～Stage2」を策定

Earth戦略の実行を通じたSDGs達成

Earth戦略におけるSDGsの視点（方向性）②

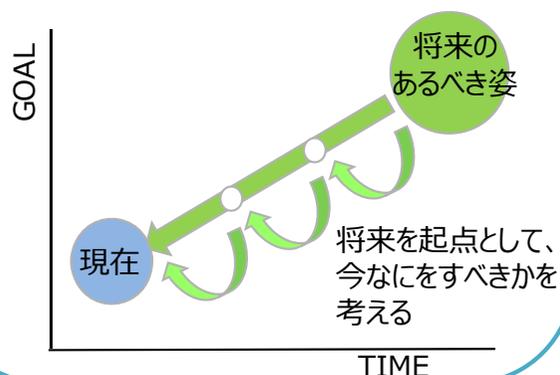
Earth戦略～Stage2にSDGsを取り込むために、3つの思考（①時間的逆算思考、②論理的逆算思考、③リンケージ思考）を導入し、九州のあるべき姿を描き、次期目標・課題の設定、アクションプラン策定を行う。

（3つの思考は、SDGパートナーズ講演資料から引用）

Earth戦略への3つの思考の導入

1. 時間的逆算思考 （ムーンショット理論）

過去や現在の実績を積み上げて未来を考えるのではなく、将来の理想の姿を想像し、そこから逆算して、今なにをすべきかを考え、必要なイノベーションを起こしていく。
（バックカスティング思考）



2. 論理的逆算思考 （演繹的イノベーション）

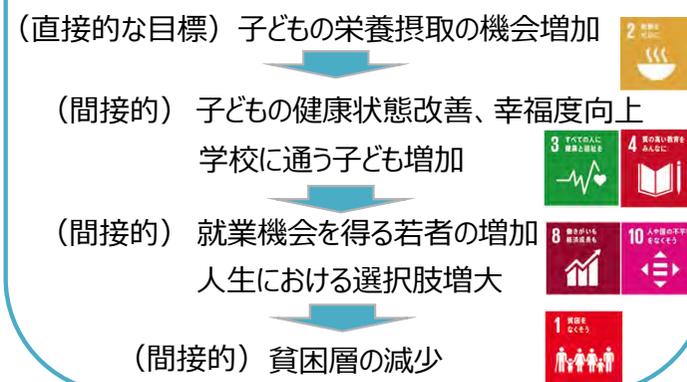
課題に対して対症療法的に対応するのではなく、論理的な解決施策を実施することで、根本原因の解決につながるイノベーションとなる。



3. リンケージ思考 （リバレッジ・ポイント理論）

SDGsはそれぞれの目標が相互に結びついているため、「槌子（てこ）の力点」となる一つの施策から一気に様々な状況の改善につながる。

【例】国連世界食糧計画の学校給食支援



九州のあるべき姿を描き、次期目標・課題の設定、アクションプランを策定

Earth戦略におけるSDGsの視点（方向性）③

地域企業へのSDGsの普及・実装の推進

地域企業がSDGsを理解し、経営戦略にSDGsを取り込むことが、企業の持続的な成長に繋がることから、産学官金連携によるSDGs推進体制（プラットフォーム）を構築し、地域企業へのSDGsの普及と経営への実装に取り組んでいくことが必要。

SDGsの普及・実装の推進 ～九州経済産業局の取組例～

産学官金連携によるSDGs推進プラットフォーム「九州SDGs経営推進フォーラム」を2019年内に設置し、**3つのアクション**を実行

【Action 1】

関係機関に対するHow-toモデルの提供

九州SDGs事例集

- ・SDGsに関する意識醸成と理解促進
- ・成功事例の顕彰・見える化を通じたステップアップ

【Action 2】

課題解決に向けた地域企業と自治体等との対話の場の提供

九州SDGsダイアログ

- ・ソリューション提案企業と課題提示企業・自治体等との対話
- ・連携による持続可能な課題解決プロジェクトの創出

【Action 3】

金融連携による地域企業へのSDGs経営支援

九州SDGs金融連携プログラム

- ・地域金融機関、財務局、自治体等との金融ネットワーク
- ・地域企業の課題解決に貢献するSDGs経営戦略の普及と実装

(2020年以降における九州の持続可能な成長に向けた調査結果から引用)



九州・沖縄地方産業競争力協議会におけるSDGs共通理解の形成

2019年度から次期戦略の検討に先立ち、SDGsに対する共通理解を深めていく

- ・協議会メンバー向け勉強会の開催
- ・九州経済産業局等が開催する「九州SDGs経営推進フォーラム」等イベントの案内・共有
- ・企業や地方公共団体が取り組むSDGs事例等の共有

⇒ **SDGsを理解し、未来志向のアクションプラン策定へ**

【参考】Earth戦略とSDGsの関連付け（マッピング）

「九州・沖縄地方成長産業戦略（Earth戦略）」

クリーン Energy & Environment

- ・クリーンで経済的なエネルギーの供給拠点化
水素／地熱／洋上風力／海洋エネルギー／高効率火力
- ・次世代自動車の生産・開発拠点化
- ・省エネルギー先導拠点の形成
- ・アジアにおける環境・エネルギー関連産業の先導

- 1 再生可能エネルギー等の産業拠点化推進プロジェクト
- 2 北部九州自動車産業アジア先進拠点推進プロジェクト
- 3 九州スマートコミュニティ産業化プロジェクト
- 4 有機光エレクトロニクス産業拠点化プロジェクト
- 5 アジア・クリーンクラスター戦略分野展開プロジェクト



健康スマート
シティ

医療・ヘルスケア・コスメ Health

- ・健康長寿を目指した予防医療・健康増進サービスの産業創出
- ・医療機器分野への参入促進・海外展開
- ・先進医療・治療分野における新産業の創出
- ・機能性・健康食品関連産業の活性化
- ・化粧品関連産業の振興

- 6 ヘルスケア産業振興プロジェクト
- 7 九州次世代創薬拠点化プロジェクト
- 8 バイオ産業振興プロジェクト
- 9 唐津コスメティック構想推進プロジェクト



ヘルスケアツーリズム

農林水産業・食品 Agriculture

- ・海外市場への展開促進
- ・九州ブランドの創設
- ・事業規模の拡大・安定供給体制の構築
- ・農村発の再生可能エネルギーの活用
- ・国内外の販路開拓・最適生産体制構築
- ・物流・輸送システムの強化
- ・農山漁村の振興

- 10 『九州』ブランド確立プロジェクト
- 11 九州木材活用促進プロジェクト
- 12 九州水産業活性化プロジェクト
- 13 大規模施設園芸生産性向上プロジェクト
- 14 九州農業成長産業化プロジェクト



食と観光
グリーンツーリズム

観光 Tourism

第二期九州観光戦略の確実な実施

- ・九州ブランドイメージ
- ・九州への来訪促進
- ・クールジャパンと連動した観光振興

- ・観光インフラ整備
- ・来訪者の滞在・消費促進

- 15 九州観光戦略プロジェクト



横断的取組

- ・国際化
- ・産業人材
- ・インフラ整備
- ・ものづくり基盤
- ・第4次産業革命（ICT/IoT等）
- ・創業・ベンチャー
- ・九州一体となったビジネス交流・情報発信の促進

- 16 グローバル人材の育成・活用促進プロジェクト
- 17 ものづくりにおける組込みソフトウェアへの軽量Ruby活用促進プロジェクト
- 18 九州IoT推進プロジェクト
- 19 ドローン産業振興プロジェクト
- 20 創業・ベンチャー企業創出プロジェクト



九州～沖縄連携

- ・スポーツ・ヘルスケア分野におけるビジネス創出
- ・那覇空港国際物流ハブ機能を活用したアジア展開
- ・国際クルーズ船の共同誘致

- 21 九州－沖縄連携推進プロジェクト



九州経済産業局は、持続可能な社会実現に向けた世界の流れを踏まえ、2018年度、「有識者による研究会」を設置し、九州の地域企業等におけるSDGs取組状況や課題の整理、課題解決に向けた具体的対応策について調査を実施。

調査方法

（1）アンケート調査

●九州におけるSDGsの現状と課題

504企業 回答数226（回収率44.8%）

240自治体 回答数158（回収率65.8%）

（2）ヒアリング調査

●SDGsに関する先進事例調査

24企業 6自治体 2大学

（3）有識者による研究会

●3回開催（2018年11月/2019年1月/2019年2月）

- ・井上 滋樹 九州大学 SDGsデザインユニット長 教授
- ・大野 隆 肥後銀行 経営企画部 サステナビリティ推進室長
- ・箄島 修三 (一社)九州経済連合会 企画調査部長
- ・片山 礼二郎 (公財)九州経済調査協会 調査研究部長
- ・佐々木 久美子 (株)グルーヴノーツ 代表取締役会長
- ・濱砂 清 (一社)SINKa 代表理事
- ・山下 英志 JICA九州 市民参加協力課 主任調査役
- ・山村 直弘 九州経済産業局 総務企画部長

調査結果のポイント

- 九州企業の多くは、SDGコンパスでは**ステップ1（SDGsを理解する）がボリュームゾーン**。
- 社会的課題や地域課題の解決に向けて、演繹的な**オープンイノベーション**の視点が重要。
- 産学官金が連携して、**地域企業が持続的に牽引**し、多様なステークホルダー等がそれを支える仕組みを形成。
- 地域企業がSDGsを本業に埋め込み、SDGs経営を実装するための**「体制整備」と「アクション」**を推進。

具体的対応

●SDGs経営の推進に向けた体制整備とアクション（2019年度）

- | | | |
|--------------------------------|---|------------------------|
| 【体制整備】多様な主体が参画するプラットフォームの形成 | ⇒ | 九州SDGs経営推進フォーラム |
| 【Action1】関係機関に対するHow-toモデルの提供 | ⇒ | 九州SDGs事例集 |
| 【Action2】地域企業と自治体等との対話の場の提供 | ⇒ | 九州SDGsダイアログ |
| 【Action3】金融連携による地域企業へのSDGs経営支援 | ⇒ | 九州SDGs金融連携プログラム |